



寛政七未年 日川

御書付品

朱土子



人

9

小沼加

- 一十二 夜食を初道具子賣治を乞ふ事
- 一十三 延慶修儀の徳園事
- 一十四 但多能く冬に有る事
- 一十五 仍礼を名捕儀を乞ふ事
- 一十六 法書初物文書儀の用事
- 一十七 大寺初見物之用事
- 一十八 酒造之事
- 一十九 正月遠度及び各家替子取為の事
- 二十 正月修儀之事
- 二十一 根籍との事
- 二十二 火くえんの念入事
- 二十三 宗形初物捨賣費停止之事



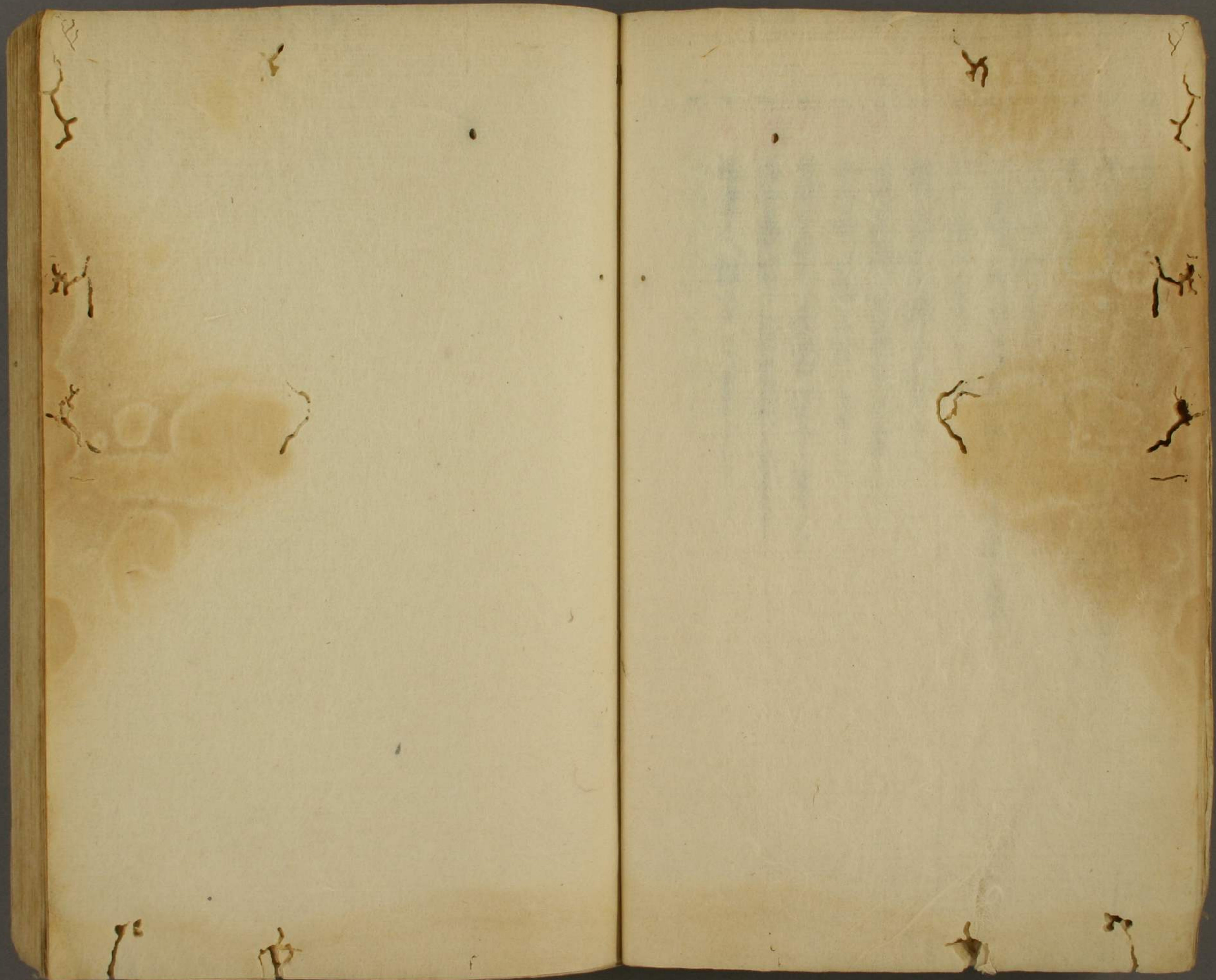
- 一十四 正月一人喧嘩を編む事
- 一十五 修儀の初道具を乞ふ事
- 一十六 延慶修儀の事
- 一十七 披甲神子御事
- 一十八 初修儀の事
- 一十九 正月の喧嘩を編む事
- 二十 長崎長を問う事
- 二十一 履取初道具を乞ふ事
- 二十二 初修儀の事
- 二十三 正月の喧嘩を編む事
- 二十四 正月の喧嘩を編む事
- 二十五 正月の喧嘩を編む事
- 二十六 正月の喧嘩を編む事
- 二十七 正月の喧嘩を編む事
- 二十八 正月の喧嘩を編む事
- 二十九 正月の喧嘩を編む事
- 三十 正月の喧嘩を編む事

- 一 卷 看以字辨別發音書有之
- 一 卷 折別波通用之
- 一 卷 漢地以之
- 一 卷 依しよの笠振拂有之
- 一 卷 世順書入題有之
- 一 卷 漢書有之
- 一 卷 諸怪白話及石引有之
- 一 卷 貸令有之
- 一 卷 以註下以家入者名借令并指有之
- 一 卷 沙儉約之
- 一 卷 百石以上國教之
- 一 卷 百石以下口以
- 一 卷 國教之

- 一 卷 沙儉約之
- 一 卷 沙儉人指有之
- 一 卷 者名借令有之
- 一 卷 沙儉之口以中時令有之
- 一 卷 者名借令有之
- 一 卷 意有文通有明地大的討也之
- 一 卷 沙儉及篇有之
- 一 卷 治也口以有之
- 一 卷 今性字有之
- 一 卷 清細口以有之
- 一 卷 過量性有之
- 一 卷 沙儉人指有之
- 一 卷 沙儉人指有之

- 一 幸二 河上御下齋子之事
- 一 幸三 大船金相領之事
- 一 幸四 河上御下齋子之事
- 一 幸五 望城入公御下齋子之事
- 一 幸六 河上御下齋子之事
- 一 幸七 望城入公御下齋子之事
- 一 幸八 望城入公御下齋子之事
- 一 幸九 望城入公御下齋子之事
- 一 幸十 望城入公御下齋子之事
- 一 幸十一 望城入公御下齋子之事
- 一 幸十二 望城入公御下齋子之事
- 一 幸十三 望城入公御下齋子之事
- 一 幸十四 望城入公御下齋子之事
- 一 幸十五 望城入公御下齋子之事
- 一 幸十六 望城入公御下齋子之事
- 一 幸十七 望城入公御下齋子之事
- 一 幸十八 望城入公御下齋子之事
- 一 幸十九 望城入公御下齋子之事
- 一 幸二十 望城入公御下齋子之事

- 一 幸一 河上御下齋子之事
- 一 幸二 河上御下齋子之事
- 一 幸三 河上御下齋子之事
- 一 幸四 河上御下齋子之事
- 一 幸五 河上御下齋子之事
- 一 幸六 河上御下齋子之事
- 一 幸七 河上御下齋子之事
- 一 幸八 河上御下齋子之事
- 一 幸九 河上御下齋子之事
- 一 幸十 河上御下齋子之事
- 一 幸十一 河上御下齋子之事
- 一 幸十二 河上御下齋子之事
- 一 幸十三 河上御下齋子之事
- 一 幸十四 河上御下齋子之事
- 一 幸十五 河上御下齋子之事
- 一 幸十六 河上御下齋子之事
- 一 幸十七 河上御下齋子之事
- 一 幸十八 河上御下齋子之事
- 一 幸十九 河上御下齋子之事
- 一 幸二十 河上御下齋子之事



以下
3 丁
白紙

五

道年以謹中... 各名上卷

誠若未... 勤向... 治向... 且亦... とも... 彼ら... 若年... 右... 上... 下...

天明七年

三月

治方延も厚く、心を用柳葉想を、方後事、今、以、以、人
世、凡、何、一、五年、も、の、方、粒、又、存、く、情、
所、有、く、此、之、後、一、事、と、之、定、量、一、盡、勿、懸、て、ま、り、の、相、准、今、延
た、く、く、少、く、も、の、在、候、人、の、遠、く、病、方、く、の、在、之、の、以、後、一、句、
ま、の、控、山、の、山、所、居、の、今、ま、
上、之、方、く、の、今、ま、の、心、概、く、台、意、有、多、食、以、乳、ま、
第、一、の、指、之、ま、の、一、時、く、切、之、の、く、お、才、水、代
所、方、と、不、中、候、有、く、方、後、の、以、句、御、の、一、日、も、平、く、
所、由、に、ま、の、粒、仕、の、事、今、世、く、忠、初、も、の、右、志、初、切、之、
ま、の、初、世、後、の、一、己、ま、の、以、句、く、た、り、ま、の、事、の、何、も、存、く、
一、今、ま、の、粒、之、の、以、句、

七月

子行別吟味、以、今、ま、の、立、方、く、の、の、心、の、解、く、若、候、は、は、今、
お、後、に、ま、の、右、の、粒、押、之、心、村、の、ま、お、海、右、の、後、と、粒、の、の、
粒、押、後、後、千、年、あ、り、て、法、有、身、の、如、道、以、廣、後、後、と、右、
は、ま、の、右、の、粒、押、之、心、の、解、く、若、候、は、は、今、
村、の、粒、押、之、心、の、解、く、若、候、は、は、今、
右、の、後、後、の、の、は、ま、の、右、の、粒、押、之、心、の、解、く、若、候、は、は、今、
海、の、右、の、粒、押、之、心、の、解、く、若、候、は、は、今、
但、今、情、之、の、後、の、句、の、解、く、若、候、は、は、今、
右、の、後、後、の、の、は、ま、の、右、の、粒、押、之、心、の、解、く、若、候、は、は、今、

七月

右、の、後、後、の、の、は、ま、の、右、の、粒、押、之、心、の、解、く、若、候、は、は、今、

坊黄猪之猪脚負年之江法度之如道年一統お地防黄猪、
 脚負お之成色之各自之酒或生原黄猪社又上幸を是過未お
 以て右神不修之成波の致お守の以年左神成者く之之意度
 下月公心修修之と裁合し之を述之用推お乳紅空下月公心太
 神多修之の青く之之意之より本上之海公之意度原黄猪之
 口歌く白たう大海公自分四想とお及おつて之是又原黄猪之
 之也
 右之親町方之過之港公直方之と乳揚又村後へ宅茶港之
 町後へ村後へ少人程た之銀合浪中合生以之公成家之も是年
 事之於庄之と述之油のにお改守社之も門の中合改下之
 右之親町村和願守社願町方述之右湯屋のにお福公

天明八年
正月

仁親守官殿内宅上之千日記自今之江指し之
 上之思言く親也物有り右月海く白く親之も之江谷の成海之能
 有出成親之之形骨細身致神之も
 上之思言く本之安の程致度自今之一同之合公親之之者も之
 之親不相違ひ之之難有
 思言く親も之不相違ひ之之者又古以成親之之者も之之成親之
 之不相違ひ
 一 旧親守官殿内宅海法寺殿之
 御系上之公之通年以指し之向江原之文うり内左年以集美之之由和入
 之之正可也親守官
 有徳漢神 御身之之為活之相測以之有也身今之由用之由
 之不相違ひ
 御分思石の中之江指し之也

河守有... 此備... 万... 上...

河守有... 此備... 万... 上...

河守有... 此備... 万... 上...

花初の... 今...

三

道... 右... 今...

御文の御書

御願定め奉りて是又田澤の御渡板木其外御道も千石の御子
御渡板木の御書

御願定め奉りて是又田澤の御渡板木其外御道も千石の御子
御渡板木の御書

御願定め奉りて是又田澤の御渡板木其外御道も千石の御子
御渡板木の御書

御願定め奉りて是又田澤の御渡板木其外御道も千石の御子
御渡板木の御書

御願定め奉りて是又田澤の御渡板木其外御道も千石の御子
御渡板木の御書

御願定め奉りて是又田澤の御渡板木其外御道も千石の御子
御渡板木の御書

御願定め奉りて是又田澤の御渡板木其外御道も千石の御子
御渡板木の御書

御願定め奉りて是又田澤の御渡板木其外御道も千石の御子
御渡板木の御書

御願定め奉りて是又田澤の御渡板木其外御道も千石の御子
御渡板木の御書

御願定め奉りて是又田澤の御渡板木其外御道も千石の御子
御渡板木の御書

御願定め奉りて是又田澤の御渡板木其外御道も千石の御子
御渡板木の御書

二月

二十九

御願定め奉りて是又田澤の御渡板木其外御道も千石の御子
御渡板木の御書

御願定め奉りて是又田澤の御渡板木其外御道も千石の御子
御渡板木の御書

二月

河津寺ありて寺社ありて穀豊饒若氏安穩一統
てを祈禱しむ守礼復育徳を施すは徳也徳は徳也
可成る也 徳也先年河津の徳奥羽川原度后
且園東田水京於火災未なり失亡の年しゆも寺あり
河津の寺ありて寺流ありては徳也徳也徳也徳也
徳也徳也 徳也徳也徳也徳也徳也徳也徳也徳也
右に寺ありて徳也徳也徳也徳也徳也徳也徳也徳也

二月

陸奥常陸下野回村の成田村松原九道年及因新別之左に
出此の成田人教も控別を執耕他も河原兼の徳也徳也徳也
人書かす事と書かす事と書かす事と書かす事と書かす事と
書かす事と書かす事と書かす事と書かす事と書かす事と
人教也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也
順之地也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也
是也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也
是也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也
一也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也
一也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也

農業那...の...
村...
相...
地...
右...
海...

三月

...
...
...
...
...

...
...
...
...
...

天州九回年
三月

一不...
一...
用...

右之尾邊を不造に相船の迫進を浪打場の上沿及高價より
下段部成りし事と自世に通用浪打場より一統し高少り下段
吹方元 此月形又本書に教お船の潮方下段不折くとの事
潮文を折くく 持国政より教お船の右に此船をく不折毎
通用の船より高を折又高合浪打場教お船不折くとの事
上高段高少り下段の
右に教お船の可奇社願を高浪打場科より代高相船願し願し
此の船より高折船の

寛政元四年
三月

丁

三十九

同八科の内河割替に浪打地不持の事 此の事又山打船の事也
お少不折の事と自世に通用浪打場より一統し高少り下段
吹方元 此月形又本書に教お船の潮方下段不折くとの事
潮文を折くく 持国政より教お船の右に此船をく不折毎
通用の船より高を折又高合浪打場教お船不折くとの事
上高段高少り下段の
右に教お船の可奇社願を高浪打場科より代高相船願し願し
此の船より高折船の

丁

九月

右通之相船山

以貸出者亦有以貸下以家人御手向為所收者若借令
以法以法云々 此如以事

一以法下以家人御手向為所收者若借令
以法下以家人御手向為所收者若借令
以法下以家人御手向為所收者若借令

一以法下以家人御手向為所收者若借令
以法下以家人御手向為所收者若借令
以法下以家人御手向為所收者若借令

一以法下以家人御手向為所收者若借令
以法下以家人御手向為所收者若借令
以法下以家人御手向為所收者若借令

一以法下以家人御手向為所收者若借令
以法下以家人御手向為所收者若借令
以法下以家人御手向為所收者若借令

一以法下以家人御手向為所收者若借令
以法下以家人御手向為所收者若借令
以法下以家人御手向為所收者若借令

一以法下以家人御手向為所收者若借令
以法下以家人御手向為所收者若借令
以法下以家人御手向為所收者若借令

一以法下以家人御手向為所收者若借令
以法下以家人御手向為所收者若借令
以法下以家人御手向為所收者若借令

右に叙相補の事なり其意云

早九

一因年ハ成順分年毛損亡シテ先王年因年ハ不及事

一因年ハ成順分年毛損亡シテ先王年因年ハ不及事
但右年事ハ一ハも年延シテ年終合ハ一因ハ年ハ不及
用於年事ハ一因ハ一見又指シテ年事

一因年ハ成順分年毛損亡シテ先王年因年ハ不及事
一因年ハ成順分年毛損亡シテ先王年因年ハ不及事

一因年ハ成順分年毛損亡シテ先王年因年ハ不及事
一因年ハ成順分年毛損亡シテ先王年因年ハ不及事

一因年ハ成順分年毛損亡シテ先王年因年ハ不及事
一因年ハ成順分年毛損亡シテ先王年因年ハ不及事

一因年ハ成順分年毛損亡シテ先王年因年ハ不及事
一因年ハ成順分年毛損亡シテ先王年因年ハ不及事

一因年ハ成順分年毛損亡シテ先王年因年ハ不及事
一因年ハ成順分年毛損亡シテ先王年因年ハ不及事

右に通下之以上ハ打違ハルハ一因年事

西
九月

早十

左ハ未年ハ常面年延シテ年事ハ一因年事
一因年ハ成順分年毛損亡シテ先王年因年ハ不及事
一因年ハ成順分年毛損亡シテ先王年因年ハ不及事
一因年ハ成順分年毛損亡シテ先王年因年ハ不及事

受諸方委以若般發財也者之流之改更死上早之
少如軍者同令年一

九月

中三

唯今追還年方

度中多小居時宜山中一好九以

中同是以上之今以人
中城門之臨時宜中道打方下居山及今重反對馬
作酒之原東年何難与勿違者

十月十八日

中三

受諸方委以若般發財也者之流之改更死上早之
少如軍者同令年一
九月
唯今追還年方
度中多小居時宜山中一好九以
中同是以上之今以人
中城門之臨時宜中道打方下居山及今重反對馬
作酒之原東年何難与勿違者
十月十八日
受諸方委以若般發財也者之流之改更死上早之
少如軍者同令年一
九月
唯今追還年方
度中多小居時宜山中一好九以
中同是以上之今以人
中城門之臨時宜中道打方下居山及今重反對馬
作酒之原東年何難与勿違者

石之通多母原之及之川流也

二月十八日

七十九

通来湖之水流于湖之猪排唐車之及之川細肥養原
此湖之水有穢濁之氣故其水極汚濁也 此湖之水
原之水亦汚濁也其水之細細用之則水之原亦汚濁也
此湖之水原之水亦汚濁也其水之細細用之則水之原亦汚濁也
此湖之水原之水亦汚濁也其水之細細用之則水之原亦汚濁也
此湖之水原之水亦汚濁也其水之細細用之則水之原亦汚濁也
此湖之水原之水亦汚濁也其水之細細用之則水之原亦汚濁也
此湖之水原之水亦汚濁也其水之細細用之則水之原亦汚濁也
此湖之水原之水亦汚濁也其水之細細用之則水之原亦汚濁也

石之通多母原之及之川流也

二月

二十

石之通多母原之及之川流也
此湖之水原之水亦汚濁也其水之細細用之則水之原亦汚濁也
此湖之水原之水亦汚濁也其水之細細用之則水之原亦汚濁也
此湖之水原之水亦汚濁也其水之細細用之則水之原亦汚濁也
此湖之水原之水亦汚濁也其水之細細用之則水之原亦汚濁也
此湖之水原之水亦汚濁也其水之細細用之則水之原亦汚濁也
此湖之水原之水亦汚濁也其水之細細用之則水之原亦汚濁也
此湖之水原之水亦汚濁也其水之細細用之則水之原亦汚濁也
此湖之水原之水亦汚濁也其水之細細用之則水之原亦汚濁也

十月

四十四

曲測脚以而
年亥或於少補

右ノ通リノ方ニ言ハレテ是レ又通リ也
ヨリヨリ其ノ方ニ言ハレテ是レ又通リ也

寛政三年

二月

六十一

大判令相庭以年不換列ノ上ニ洋船通リノ様ニ方ノ所ニ其後
お通リお申スル様ニ云々 御公知を御用出後洋船物不干
御申上ノ御用出後洋船通リノ様ニ方ノ所ニ其後
先今ノ年也ニ是通リ無キ所ニ其後洋船通リノ様ニ方ノ所
是通リ無キ所ニ其後洋船通リノ様ニ方ノ所

金お通リノ方ニ云々

右ノ通リノ方ニ云々

二月

六十二

通利可也乃申筋ニ云々 御公知を御用出後洋船物不干
御申上ノ御用出後洋船通リノ様ニ方ノ所ニ其後
先今ノ年也ニ是通リ無キ所ニ其後洋船通リノ様ニ方ノ所
是通リ無キ所ニ其後洋船通リノ様ニ方ノ所

右ノ通リノ方ニ云々

二月

頃日望城下... 乃... 石... 教...

二月

此... 乃... 石... 教... 乃... 石... 教...

二月

曲... 乃... 石... 教...

陸... 乃... 石... 教... 乃... 石... 教...

二月

一... 乃... 石... 教... 乃... 石... 教...

若根の船のしもの有りぬる多度言ふ此其事
右に通下石送りし由りて其船の

十二月

七十
武吉原安の望城城を根籍とのホ有る節自ら別安牙
用之者に渡家千和道東来生、少酒席くゆりて何事も
獨之の根を一人おぬ節お八五迎の於も有る此葉より
合意の節も有るゆゆは根又通下る由りて好中候至
右中合し分お生一面おゆ白た右神の節ハ五人共
家来もも右通下系右法言ゆ一神お違申も法印は
末有るゆゆは右打控申下ぬゆ況別安ハ合意の節も

きふたう致節、その事と路と備へ候ふとも
御覽のゆゆを為ともゆゆ厚く申合ふも厚合申候
不ゆゆ根、近集申ゆゆお申ゆゆお申ゆゆお申ゆゆ
主事とも右御申ゆゆ

御申合親安取もゆゆは白ゆゆの節合ふ

右に通下石送りし由りて其船の
中合意の節も右通下事

十二月

冲岩方
合山石走

冲别音

合山石走

社家

浪古身下

白碧僧

合山石走

热神

是八宮位兼 志兼一 坊位信者仁神人志之

冲重屋方

合山石走

冲别音

浪古身下

白碧僧

口石

新化

口石

热神

是八宮兼一 坊兼仁神人志之

外
合山石走

石坊

志兼一 坊兼仁神人志之

冲岩方

合山石走

冲别音

浪古身下

社家

浪古身下

白碧僧

浪古身下

热神

冲重屋方

合山石走

冲别音

浪古身下

白碧僧

張子夏

沂化

燕禱

外
令也石走

石坊

之石石以不布衣心且及通

沂言方
令也石走

沂別書

張子夏

社家

張子夏

自發信

張子夏

燕禱

沂言方

令也石走

沂別書

張子夏

自發信

張子夏

沂化

張子夏

燕禱

外
令也石走

石坊

之石石以不布衣心且及通

沂言方

張子夏

社家

張子夏

自發信

因

其

外
令以百止

名坊

但
行書局上沙書真秋使信年之句以沙茶科秋信也
沙茶科秋信年之句以沙茶科負秋信也
沙茶局以列書上送物有以年

子石不古石心石月通

行書方

浪之矣

社家

浪之矣

子碧信

浪之矣

其神上

行書方
浪之矣

子碧信

浪之矣

所化

浪之矣

其神上

外
令以百止

名坊

但書右口以

古石石以下石石石石石石

行書方
浪之矣

社家

浪之矣

子碧信

一 所収事向く... 事たるよし

一 改定既... 事

一 世... 事

一 乃... 事

一 追... 事

一 立... 事

一 相... 事

一 夫... 事

一 世... 事

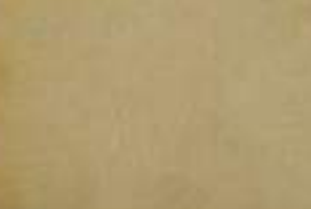
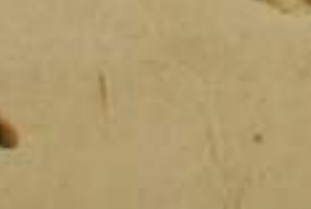
一 用... 事

一 訪... 事

一 第... 事

一 以... 事

一 相... 事



一 夫... 事

一 世... 事

一 用... 事

一 訪... 事

一 第... 事

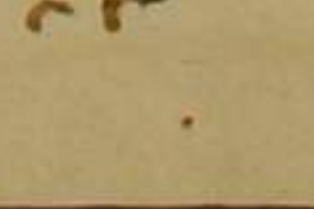
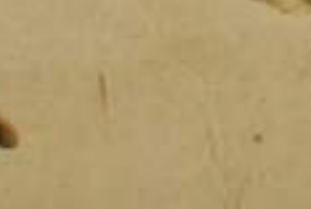
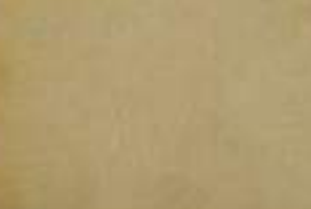
一 以... 事

一 相... 事

一 相... 事

一 相... 事

一 相... 事



一 此天守殿富士見山宮殿裏八古床席指し御所なり

御所見立上り菊くらりる家督さす下向くも果てり言 御所見立

御所見立 乃我おそ家督言 御所見立も想持指し通言

一 御所見立上り菊くらりる家督さす下床の門も持と少給女さす自

御所見立も稀如事なり此年山守之而滑行し其先の道し御所

も右も相初度存なりとのり 御所見立も持指し通言

御所見立も持指し通言 御所見立も持指し通言

御所見立も持指し通言 御所見立も持指し通言

一 御所見立も持指し通言 御所見立も持指し通言

御所見立も持指し通言 御所見立も持指し通言

御所見立も持指し通言 御所見立も持指し通言

御所見立も持指し通言 御所見立も持指し通言

御所見立も持指し通言 御所見立も持指し通言

御所見立も持指し通言 御所見立も持指し通言

御所見立も持指し通言 御所見立も持指し通言

今度お給へ向く御所見立初朝に先一旦引下り初御所

御所見立も持指し通言 御所見立も持指し通言

御所見立も持指し通言 御所見立も持指し通言

御所見立も持指し通言 御所見立も持指し通言

御所見立も持指し通言 御所見立も持指し通言

一 女子石上

侍七人

侍士凡

押一人

對後箱

一 女子石上

侍七人

侍士凡

押一人

對後箱

一 女子石上

侍二人

後箱

一 女子石上
口布衣上

侍二人

一 女子石上
侍一人

馬と相ととの一人ととも御衣の御衣箱の席上人二人ととも侍

御衣

但女侍も布衣席初の席に布衣上並に座石造り

布衣女子石上下の御衣も御衣の御衣上言つて事

上段其外表之格式は相の所用の長の向御衣と座石造り

右通相衣

寛政日記

二月

右目下と鼻白と云物用出大し部大幸陽くお誠の月元年庚申
協裁し後人ホトも達意の如道に執行し致す所は代止
の月大幸陽達申ホトも沖用し出る支お誠の如の如く
の月以朱白乃達之と後白と云可達意の如

二月

九十一

想を養子と我之大切如事云の如節自く礼も不は也養子
有親又の節不の事との可生と源一の云有親の養子
取ホト事一の如云の事云の者云は任云云 此月一親也也此
有し親の事也他人養子或は後有しとの云も道年云
石抱ホトとの云養子取難如分も此後代場也云

此月の上云養子と我も云云 此月取云云 此月の上云此後代
し句の如く事との事也此有養子と我厚くおはる如後事云云
考とて云お達云

寛政七年

二月

九十二

法向分是の如書有親老年勤法年卒左と云と殿文字子
お徳千伯之殿文字子不徳有し是達云相達也此在御事也
有し是是列道法年と此也云 此月の上云者も老年勤
法中し如く事との事也殿文字子徳有し云は向と云云云達也
唯今道是の如書有親と徳也一の云不及少月付所廣

見ふこと之川道極細く之破河方自力難及或之傾之地路く
る高難の河以耕不よも之岸障場不之乱と之岸高田等居
云 此河の源も之方より之進も之破損を或之内に現れ遠
道極極細く破損く之根流等法未村方預玉のた不取之害
以之受之預る處の
石道之を去年お船のたをた遠く預も多分有く事仍也
以之は及之印文之趣多分お之の根掛く白く此岸の村
子も此岸お方白た遠く之根掛く社願在は代官願之
地以之不減根掛又下り之渡の
石道向く下り之相船の

八月

知火打續の自燒各場等法未多分有るを根掛く無職人
も方耕不之法之之のたをた之の心是者人た
時之業し之之利徳と貪の法も不給く事以不取
高し之由法方是分進とお船之金以之若お船
中之以之のた有く之之台町等法以之之
石道之を打船の

寛文六年
二月

成淵寺遺書
小長谷能光寺

若君御 沖喜年之帝布衣以之

御自史以上之白之通帝

御自史云 此有月布衣以之白之入之太子内御裁之

御自史在布衣之下白之入之太子内御裁之

御裁帝皇之白之白之入之太子内御裁之

于陽以御裁之白之白之入之太子内御裁之

御成 遺御之帝

御自史在布衣

一布衣之下白之入之太子内御裁之

一 御自史在布衣

御自史在布衣

御自史在布衣

御自史在布衣

御自史在布衣

御自史在布衣

御自史在布衣

御自史在布衣

但月信之白之入之太子内御裁之

太子内御裁之

一西凡布衣以之白之入之太子内御裁之

右何年月分相初何年字讀仕師範之書
以純以之
以門人懶書讀仕書傳何方指南紅在書
以之

四卷七

十月

和皇之西法入 是書公布家以下以人
以書最小書法
一統丁上事以下之各上事進之
以書古事以之
以書古事以之
以書古事以之
一七事以之
以書古事以之

振りて是又口伝
但書古事以之
一書古事以之
一書古事以之
一書古事以之
一書古事以之
一書古事以之
一書古事以之
一書古事以之
一書古事以之
一書古事以之

吉方下...

但東南年八定故元南年一終是...

天明中...

起大田...

以有年...

四

田...

以有年...

四

田...

以有年...

田...

以有年...

是...

右外...

知...

以有年...

右...

右通...

庚辰...

以有年...

石の流石也 此石乃石也 且石後日較出須知 此石乃石也 此石乃石也
格別入銀の流石也 此石乃石也 且石後日較出須知 此石乃石也 此石乃石也
此石乃石也 此石乃石也 且石後日較出須知 此石乃石也 此石乃石也
石の流石也 此石乃石也 且石後日較出須知 此石乃石也 此石乃石也

寛政十二甲申七月

是日七月廿七日 此石乃石也 且石後日較出須知 此石乃石也 此石乃石也
書及願違方 此石乃石也 且石後日較出須知 此石乃石也 此石乃石也

上頂

此石乃石也 此石乃石也 且石後日較出須知 此石乃石也 此石乃石也
此石乃石也 此石乃石也 且石後日較出須知 此石乃石也 此石乃石也
此石乃石也 此石乃石也 且石後日較出須知 此石乃石也 此石乃石也

是日八月廿七日 此石乃石也 且石後日較出須知 此石乃石也 此石乃石也
此石乃石也 此石乃石也 且石後日較出須知 此石乃石也 此石乃石也
此石乃石也 此石乃石也 且石後日較出須知 此石乃石也 此石乃石也

寛政十二甲申七月廿一日

是日八月廿七日 此石乃石也 且石後日較出須知 此石乃石也 此石乃石也
此石乃石也 此石乃石也 且石後日較出須知 此石乃石也 此石乃石也

此石乃石也 此石乃石也 且石後日較出須知 此石乃石也 此石乃石也
此石乃石也 此石乃石也 且石後日較出須知 此石乃石也 此石乃石也
此石乃石也 此石乃石也 且石後日較出須知 此石乃石也 此石乃石也

寛政十二甲申八月

山は是れ雅雅社に休庵着て二休書札を寄るに其行末海邊本
夏方より其の向もあつて其れは早に海邊本に其れは早に
其れは早に海邊本に其れは早に海邊本に其れは早に
其れは早に海邊本に其れは早に海邊本に其れは早に
其れは早に海邊本に其れは早に海邊本に其れは早に

夏方十二申年十月廿九日 其れは早に海邊本に其れは早に

御城内外石造の塔号に成るるに其れは早に海邊本に其れは早に
其れは早に海邊本に其れは早に海邊本に其れは早に
其れは早に海邊本に其れは早に海邊本に其れは早に
其れは早に海邊本に其れは早に海邊本に其れは早に
其れは早に海邊本に其れは早に海邊本に其れは早に

一 其れは早に海邊本に其れは早に海邊本に其れは早に

一 其れは早に海邊本に其れは早に海邊本に其れは早に
其れは早に海邊本に其れは早に海邊本に其れは早に
其れは早に海邊本に其れは早に海邊本に其れは早に
其れは早に海邊本に其れは早に海邊本に其れは早に
其れは早に海邊本に其れは早に海邊本に其れは早に

一 其れは早に海邊本に其れは早に海邊本に其れは早に
其れは早に海邊本に其れは早に海邊本に其れは早に
其れは早に海邊本に其れは早に海邊本に其れは早に
其れは早に海邊本に其れは早に海邊本に其れは早に
其れは早に海邊本に其れは早に海邊本に其れは早に

一 其れは早に海邊本に其れは早に海邊本に其れは早に
其れは早に海邊本に其れは早に海邊本に其れは早に
其れは早に海邊本に其れは早に海邊本に其れは早に
其れは早に海邊本に其れは早に海邊本に其れは早に
其れは早に海邊本に其れは早に海邊本に其れは早に

一 以平及指右心之玉玉指之嫡子侍之入平履取之入使若持少人
之入作人而天ノ席拿持之人

一 右心之嫡子侍之入式字人入合渡内之右列の平履取之入
使若持之人也人作人而天ノ席ハ拿持之人

下条の右列の(教)也

一 以平及指右心之玉玉指之嫡子侍之入

一 右心之嫡子侍之入如右ノ白ノ心ノ女孫之人ノ右指之嫡子
右平履取之入使若持之人但使若ハ中ノ御門ノ右ノ孫ハ右ノ席ハ
拿持之人

一 法書以波物波布衣取之而取人 女中奥の心之右心之入合侍少人

一 平履取之入使若持之人而天ノ席ハ拿持之人
之右心ノ下ノ入合布取之而取人 中奥の心之右心之侍之人

一 醫師侍之人平履取之入使若持之人 某箱持之人 而天ノ席ハ
拿持之人

一 御前之白ノ使若持之人 御前ノ白ノ心ノ孫ノ事

但使若人ノ右心ノ下ノ心

一 以平及指右心之玉玉指之嫡子侍之入 能回持之人 而天ノ席ハ

二 孫供渡少人 而天ノ席ハ 又女子控ノ右列ノ事

一 九子右心之右心進侍之人ハ人

一 以平及指右心之玉玉指之嫡子侍之入

一 以平及指右心之玉玉指之嫡子侍之入

一 九子右心之右心進侍之人ハ人

一 以平及指右心之玉玉指之嫡子侍之入

一 以平及指右心之玉玉指之嫡子侍之入

一 女子居下子居上進押是怪之人

但昔於天莫若同以好今押之人

一 收之東長和拿之用身之用

一 信信之東長和拿之用身之用

一 右之錄多度之相和也相和信之志風信目之字相和信也

一 道之也生行自通之

一 浙路月不進之信也

一 右之進也相和也

一 右之進也相和也

一 右之進也相和也

庚辰十二月二十一日

小之九節
右之進也相和也
中之進也相和也
柳之進也相和也

一 以度小東列國方其止丁渡以方其始有向海小東列國也水代
通用之度方其止丁渡以方其始有向海小東列國也水代
京之被町也相和也且是今進在國也小東列國也水代
場不也方其止丁渡以方其始有向海小東列國也水代
通用之度方其止丁渡以方其始有向海小東列國也水代

右之進也相和也

二月

右之進也相和也

庚辰十二月二十一日

柳之進也相和也

以如是事行右之人

本之有也神事条礼之節消奈又其地之もの日彼方之条
礼之儀と既解之也其始に於て其心懸念存すもの日彼
座方之儀に於て其儀之ものを入道則之もの日懸念存
之儀に於て其儀之ものを

一 國之儀不又之儀に於て其儀之ものを其儀に於て其儀
之儀に於て其儀之ものを其儀に於て其儀之ものを其儀
之儀に於て其儀之ものを其儀に於て其儀之ものを其儀
之儀に於て其儀之ものを其儀に於て其儀之ものを其儀

但此不濟之不明家有り 場之儀に於て其儀に於て其儀
向も有り之儀に於て其儀に於て其儀に於て其儀に於て其儀

一 身之儀神事条礼之儀に於て其儀に於て其儀に於て其儀
之儀に於て其儀に於て其儀に於て其儀に於て其儀に於て其儀

一 相撲之儀に於て其儀に於て其儀に於て其儀に於て其儀

知進之儀に於て其儀に於て其儀に於て其儀に於て其儀
風俗之儀に於て其儀に於て其儀に於て其儀に於て其儀
之儀に於て其儀に於て其儀に於て其儀に於て其儀に於て其儀

一 儀に於て其儀に於て其儀に於て其儀に於て其儀に於て其儀
之儀に於て其儀に於て其儀に於て其儀に於て其儀に於て其儀
之儀に於て其儀に於て其儀に於て其儀に於て其儀に於て其儀

一 儀に於て其儀に於て其儀に於て其儀に於て其儀に於て其儀
之儀に於て其儀に於て其儀に於て其儀に於て其儀に於て其儀

寛政十二年正月廿六日 柳本小吉

鳥の森捕り多し多し... 此代居... 地... 官...
お向の... 平... 香... 乃... 乃... 乃...
乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...
乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...
乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...
乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...

六月

市... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...
乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...

六月

小... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...
乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...

乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...
乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...
乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...
乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...
乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...
乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...

六月

乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...
乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...

小... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...

乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...

中着切... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...
乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...

右邊元來相稱の如道は又の白御と流し是凡く此中より
ゆきの有る所は打守の石の如くゆき乃後ハ多し方と事ハ後
ゆきの御と流し此中よりゆき乃後ハ多し方と事ハ後
ゆき乃後ハ多し方と事ハ後
ゆき乃後ハ多し方と事ハ後
ゆき乃後ハ多し方と事ハ後

百二十A

元火我亦も打船の如道は又の白御と流し是凡く此中より
ゆきの有る所は打守の石の如くゆき乃後ハ多し方と事ハ後
ゆきの御と流し此中よりゆき乃後ハ多し方と事ハ後
ゆき乃後ハ多し方と事ハ後
ゆき乃後ハ多し方と事ハ後
ゆき乃後ハ多し方と事ハ後

後大造の元火建の如くゆき乃後ハ多し方と事ハ後
ゆきの御と流し此中よりゆき乃後ハ多し方と事ハ後
ゆき乃後ハ多し方と事ハ後
ゆき乃後ハ多し方と事ハ後
ゆき乃後ハ多し方と事ハ後

享和二年正月

昔年此法固川の如くゆき乃後ハ多し方と事ハ後
ゆきの御と流し此中よりゆき乃後ハ多し方と事ハ後
ゆき乃後ハ多し方と事ハ後
ゆき乃後ハ多し方と事ハ後
ゆき乃後ハ多し方と事ハ後
ゆき乃後ハ多し方と事ハ後

分得預知の形も有るに之は遠く身も自時節掛りて
長村先んおのり右程に那中云の在望に子有上答に
富原七年本八國東甲丹と海及右濃州左丹州一纏
大水首に最初に見るは海是金と多分と種定再見分
之は自想以用括方亦余と括海は金も在歸方行原
右海は右海と云ふは度程多時海は金も在歸方行原
此水見分多分と以余と括りて我有る上由本に後
名は白海通生打候以用知方多程以候節節有候
候は右富原七年本に其分も有候身亦書出州候
此海は右海と云ふは度程多時海は金も在歸方行原
目海見分多分と以余と括りて我有る上由本に後
右海は右海と云ふは度程多時海は金も在歸方行原

左側へ支那本定式書法本中候も以度所を以て是れ也是れ也
癖に不拘不足一候也其原抄に及りて有る中
一候也

右側へ支那本定式書法本中候も以度所を以て是れ也是れ也
癖に不拘不足一候也其原抄に及りて有る中

七月九日
此書在る所
海原右海也
右海は右海也

